

笑顔が集まるボランティア室

雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケナイ ボランティアさん紹介

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動は、たくさんのボランティアの皆さんにご協力をいただいて進められています。晴れの日も、雨の日も、雪の日でさえ！笑顔でボランティアに来てくださる皆さんに、スタッフも励まされています。今回は、ある日のボランティア室を密着取材した様子をお伝えします。

10:00



ボランティア室の朝はミーティングからスタート。「今日は取材が入りますよ。でも普段どおりに」とボランティア・コーディネーターの辻からアナウンス



チャイルドからの手紙を翻訳状況ごとに整理してくださっているMariさん



チャイルド宛ての手紙の同封物を確認し、記録を残してくださっているNorikoさん



チャイルドからの手紙をスキャンし、在宅翻訳ボランティアの方に送る準備をしてくださっているRumikoさん

12:00



ランチタイム！ひとつのテーブルに集まっておしゃべりしながら食べます。話題は時事ネタから季節の豆知識まで幅広い！



みんな大好き！マチコさん

密着取材した日とは別の日に来てくださっているマチコさんも、ぜひご紹介させてください。20年以上もの長きにわたり、ワールド・ビジョン・ジャパンのボランティアとして活動を支えてくださっているマチコさん。帽子からスニーカーまで、いつも可愛いコーディネートでしゃきっと背筋をのばして事務所に来てくださっています。今日もマチコさんの「おはよう～」という声でぱっと事務所が明るくなります。



チャイルド・スポンサーシップ
募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み

0120-465-009

WEBからのお申込み

ワールド・ビジョン

World Vision News

2018年6月 ワールド・ビジョンニュース

Take Back Future ~難民の子どもの明日を取り戻そう~ キャンペーン開始



Take Back Future ~難民の子どもの明日を取り戻そう~ キャンペーン開始

8,000人の命を守るために立ち上がった
1人の医師と仲間たち

~感動の保健センター開所式 in カンボジア~

知れば、 救えなくもない世界。

自分の家を追われて、
教育も未来も奪われた子どもたちが
世界には 2,800 万人いること。

それを日本で想像するのは
難しいことなのかもしれない。
今すぐ救うことは無理かもしれない。

それでも、知ろうとする姿勢は、
やがて誰かを救うことにつながる。

国も人種も関係なく、
子どもがだれ一人、
暴力を受けることのない世界へ。
知ることから、変えていこう。

特集

特集



Take Back Future
難民の子どもの明日を取り戻そう



Take Back Future ～難民の子どもの明日を取り戻そう～キャンペーン開始

2030年までに子どもに対する暴力を撤廃することが持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)で採択され、暴力撤廃に向けた動きが世界的に強まっている中、ワールド・ビジョン・ジャパンは、「教育」を通じて難民・移民の子どもに対する暴力撤廃を目指すキャンペーン、「Take Back Future ～難民の子どもの明日を取り戻そう～」を 2018年から4年間の計画で実施します。この発表は、「激動する世界の中で、もっとも弱い立場に置かれている子どもたちのために挑戦し続けていこう」という設立30周年を迎えたWVJの決意表明でもあります。

難民・移民の子どもに対する暴力のリスク

現在、世界の難民・移民の子どもの数は5,000万人で、そのうち紛争のために避難を強いられている子どもは2,800万人にのぼります。子どもたちは移動する過程で人身取引や性的搾取、児童労働、子ども兵士としての徴用など、多くの暴力の危険にさらされています。また、移動を余儀なくされる子どもたちの多くが教育を受けられていません。十分な教育を受けられずに育った子どもは、人身取引などの暴力に遭うリスクが高いという調査結果も報告されています (UNICEF 2017)。



シリア難民の姉妹

まず目指すのは、教育を通じた 「難民・避難民の子ども」に対する暴力撤廃

世界で難民として認定を受けている、学齢期（5-17歳）の子ども約640万人のうち、半数以上の約350万人が様々な理由で教育をあきらめざるを得ず、学校に通っていません。

WVJは、難民発生国トップ3であるシリア、アフガニスタン、南スーダン（多い順）のすべてで支援活動を行っており、なかでも、シリア、南スーダンの難民発生に対応した子どもたちへの教育支援に力を入れてきました。この経験を活かし、WVJは本キャンペーンを通じてます、①難民の子どもが暴力から守られること ②難民の子どもが健やかに成長し、暴力が繰り返されない未来を築いていけるようになること、を目指します。



南スーダン難民の男の子



Take Back Future
難民の子どもの明日を取り戻そう

難民の子どもに対する暴力撤廃に向けて取り組むこと

- 難民・避難民の子どもに対する暴力について日本社会で関心が高まり、一人でも多くの方に「今、できること」を見つけていただけるような企画を実施します（→P.11をご覧ください）
- 子どもに対する暴力撤廃と、難民・避難民の子どもへの教育支援に関する政策がより良い内容となるよう、政策決定者へ働きかけます
- 移動により高まる暴力のリスクから子どもを守り、暴力が繰り返されない未来を築くための教育支援を拡充します



現在実施中、またはこれから実施予定の事業例

- シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業（ヨルダン）
- 南スーダン難民の子どもたちへの教育環境整備事業（エチオピア、ウガンダ）
- イラク国内避難民の子どもたちへの教育支援事業（イラク）

WVJの教育支援事例（シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業）

ヨルダン国内でシリア難民を多く抱える地域の公立学校の多くは、急増する難民の受け入れに対応するために二部制を導入しています。午前はヨルダン人、午後はシリア人が学習していますが、半日授業では十分な学習とは言えず、取り残され中退する子どもが増えています。WVJは、ヨルダン北部でシリア難民を多く受け入れている地域の小学校の子どもたち（6-13歳）が継続して学習できる環境を整えるため、次の二つを軸にして活動しています。

1) 補習授業の支援

2) 子どもの保護を強化する活動

また、長期休みには、普段は別々のクラスで学習しているシリア人とヨルダン人の子どもたちが一緒にレクリエーション活動に参加し、互いの民族に対する差別意識を解消できるよう配慮しています。



「補習授業を受ける前はあんまり成績が良くなかったけど、今はクラスで2番か3番なの。ヨルダン人のお友達もできたわ」と話すシリア難民のエメットちゃん

詳しくは、
キャンペーンサイトを
ご覧ください

ワールド・ビジョン 難民の明日



難民支援募金にご協力ください

絶え間なく続く紛争により、平穏な日常や家族を奪われ、心に傷を負い、未来への希望まで失いかけている子どもたちが大勢います。WVJは、シリアや南スーダンなど紛争の影響下にある子どもたちが、学校での学びを通じて日常の感覚を取り戻し、安全な環境で未来を生き抜くための知識を身につけることができるよう支援しています。子どもたちが未来への希望まで失う前に、募金へのご協力を願いいたします。

◀ ヨルダンで学ぶシリア難民の子どもたち

ワールド・ビジョン 難民支援募金

8,000人の命を守るために立ち上がった1人の医師と仲間たち

～感動の保健センター開所式 in カンボジア～

「赤ちゃんを失って悲しむお母さんの涙を減らしたい」。2016年5月、強い想いと情熱をこめて電話をくださったのは、医師・現NPO法人あおぞら理事長で、2008年に自費出版・2011年に映画化された「僕たちは世界を変えることができない。」の著者、葉田甲太さん。葉田さんとWVJは、カンボジア王国（以下、カンボジア）の貧しい地域で母子の命を守るために保健センター建設プロジェクトを立ち上げ、葉田さんを応援する多くの皆さまの協力にも支えられて保健センターが完成、2018年2月に開所式が行われました。

減らさなきゃいけない「涙」 ～泣いていたお母さん

学生時代に仲間と寄付を募り、カンボジアに小学校を建設した葉田さん。その後も現地に訪問を重ねる中、生後22日目の赤ちゃんを肺炎で亡くしたお母さんに出会います。病院までの交通費がなく受診をためらい、借金をして病院に向かった時には手遅れだったと話したそのお母さんは「ずっと泣いてた」そうです。「赤ちゃんを失う悲しみは、日本でもカンボジアでも世界共通。その涙を減らしたい。」葉田さんは立ち上がり、小学校を建設支援した地域でも見知っていたWVJに連絡をくださったのです。

母子の命を救え ～プロジェクトスタート

カンボジアでは、1991年に約20年に及んだ内戦が終結して以降、母子保健分野でのめざましい改善があり、妊娠婦、乳幼児・新生児死亡率も減少しています。一方で、都市部と農村部では改善に開きがあります。背景にあるのは、産前産後検診や出産ができる保健施設の不足、専門的なスキルを持つ医療スタッフの不足、住民の知識の不足等です。WV カンボジア、現地行政との協議の結果、タイ国境に近いバンティ・ミエンチャイ州から事業地が選ばされました。事業地では保健センターが老朽化し、分娩室の屋根が落ちるなど、安心して受診・出産する環境が整っていないことから、人々が保健セ



新しい保健センターで生まれた赤ちゃんと両親

ンターに出向くよりも、自力や専門的な技術を持たない伝統的産婆の介助による出産を選択し、母子ともに危険にさらされる事態が続いていたのです。



保健センター建設中の事業地（後列右から3番目が葉田さん、右となりが葉田さんと共にNPO法人を立ち上げた近藤さん）

感動の保健センター開所式 ～日本から18名が出席

2018年2月11日（日）カンボジア保健省副大臣、州知事を主賓に迎え、葉田さん、あおぞら事務局長の近藤さん、新生児蘇生法講習を実施してくださった医師の方3名、クラウドファンディング支援者290名のうち13名、保健センター長やスタッフ、地域の住民、WV カンボジア及びジャパンのスタッフが出席し、開所式が行われました。保健センターの敷地は、地域住民の力でトラック1,000台分の土により整地され、出席者300名

が晴れやかな表情で集いました。プロジェクト開始直後の2017年春、葉田さんが事業地訪問中に出会ったお母さんとの再会もありました。当時、生後1ヶ月を待たず赤ちゃんを感染症で失った悲しみの中で保健センター建設の計画を知り、涙を流しながら「ありがとう」と話してくれたお母さん。開所式に参加した彼女は新しい命を授かっていました。その後、3月中旬、この新しい保健センターで女の子を出産したのです。（写真：左）



開院式で挨拶をする葉田さんと笑顔の副大臣・知事
写真提供：NPO法人あおぞら



真新しい保健センター。献身的なセンター長とスタッフの存在が、このセンターが行政に選ばれた一因でした



▲赤ちゃんのモデル（人形）を使用した技術講習とシナリオトレーニング



▲1人ひとりに参加証を授与。「遠いところから来てくれてありがとうございます」と若い助産師

新生児蘇生法講習を実施 ～赤ちゃんに生きるチャンスを

開所式の記念事業として、カンボジアの新生児死亡の4分の1を占める新生児仮死に対応するための講習が助産師を対象に行われました。葉田さんと新生児蘇生法普及のために活動されている小児科医の嶋岡鋼さんの出会いがあり、嶋岡さんがWVJのチャイルド・スポンサーでもいらっしゃることから、WVJが医師の皆さんと現地保健省の橋渡し役となり実現したものです。「赤ちゃんの命を救うという行為はこの国の未来を支えている。そんなあなた方を誇りに思います」嶋岡さんの言葉に、助産師たちの目には涙が光っていました。

将来は葉田さんのような医師になりたい

プロジェクト応援者：崎元美玖さん
(沖縄県／高校生)



涙でなく笑顔があふれることを願って

葉田甲太さん
(医師・NPO法人 あおぞら理事長)



今回、学校で行った募金活動を通して、このプロジェクトに参加させていただきました。カンボジアに行き、開所式に参加して、完成した立派な病院を見た時の感動は今でも鮮明に覚えています。村人たちは、病院が建ったことをとても喜んでいて、たくさんのキラキラした笑顔を見ることができ、心から幸せに思いました。また、式ではスピーチもさせていただき、一生の思い出です。今回の経験を忘れずに、これからはたくさんの人の笑顔に繋がるような支援をしたいです。

今日もどこかで亡くなっている世界の赤ちゃんを救う方法は、医学的にある程度わかっています。しかし、赤ちゃんを失うお母さんの涙を世界中で減らすには、あとどれだけ努力が必要なのか。今の自分には途方もなく思えますし、これからも思い悩むこともあるでしょう。そんな時には、開所式の皆さんと笑顔、再会できたお母さんの「ありがとう」、「お腹にいるのははじめての女の子だ」と喜んでいた顔を思い出そうと思っています。行動するのには怖いことです。でも、行動すれば救える命があります。そして、行動は自分自身が選べる選択です。これからも笑顔に貢献できるように、進んでいきたいと思います。



カンボジアの支援と暮らし

ワールド・ビジョン・ジャパンがチャイルド・スポンサーシップを通じて支援を届けている 21カ国、46 の地域の中から、今回はカンボジアの3つの支援地域をご紹介します。チャイルド・スポンサーの「地球あちこちカンボジアを知る旅」(支援地訪問ツア)では、2018年3月11日(日)～3月15日(木)に7人のチャイルド・スポンサーがトモ・ブオADP(地域開発プログラム)を、3月15日(木)～3月21日(水)に18人のチャイルド・スポンサーがボレイ・チュルサール、ボニヤー・ルウADPを訪問し、チャイルドと対面しました。その報告をお届けします。



待ちに待ったチャイルドとの対面!!

どの地域でも、チャイルドと家族が出迎えてくれました。一緒にお昼ご飯を食べ、写真を撮ったり、縄跳びやサッカーボール、シャボン玉、ゲームなどで遊び、楽しいひと時を過ごしました。プレゼントを受け取ったチャイルドは、はにかみながらも嬉しそうでした。



チャイルドが歌と踊りで迎えてくれました！
(ボレイ・チュルサールADP)



チャイルドのお母さんも縄跳びにチャレンジ！
(トモ・ブオADP)



「やっと会えたね！」交流の時間を目いっぱい使って、近況や家族のことを話しました。
折り紙やけん玉など、日本の遊びと一緒に楽しむチャイルド・スポンサーの方もいました
(ボニヤー・ルウADP)

地域ごとに紹介！

各支援地域で、保健・栄養、水・衛生、教育、出稼ぎ者の増加などの課題に取り組んでいます。

トモ・ブオADP

子どもクラブで楽しく学習

校舎や先生不足などの課題がある小学校では、授業を午前と午後の2部制に分けて行っています。そのため、子どもたちは、学校に行っていない時間に子どもクラブに集まり、英語や生活スキルなどを学んでいます。



「英語の勉強が楽しい！学校の成績も良くなり、勇気が持てるようになり、人前で話せるようになりました」と話してくれた女子（中央）

農業協同組合では女性が活躍

リーダーとメンバーのほとんどが女性という農協では、各家庭にきれいな水が届けられるよう、水管理事業を運営しています。支援により浄水設備が建てられた後は、溜池の雨水を直接使っていた以前と比べ、下痢になる子どもの人数が減りました。また、収入の3%は、学用品など地域の子どもたちの教育のために使っています。



「水道管が引かれてる家庭はまだ一部。資金を貯めてきれいな水を使う家庭を増やしたい。将来はトイレ建設にも取り組みたい」と、女性リーダーは意欲的です



各家庭では、水道管で引かれた水を溜めて使用しています

ボレイ・チュルサールADP

農業技術の支援を受け、子どもを学校に通わせることができました！

経済的、社会的にもっとも弱い立場に置かれた家庭への支援に注力しています。チャイルド・スポンサーシップを通じて、農業技術や苗の支援を受けた父親は、収穫量が増え、収入が安定した結果、「息子は村で初めて大学に進学することができた」と誇らしげに話してくれました。支援により地域の人々の生活が変わり、意識や気持ちにも変化が起きていると確信することができました。



広い畠では、近所の方と協力し合って苗植えなどをを行なっています



「食べてみて」とお父さん。みずみずしくて苦味のないきゅうりでした。夢を尋ねると「もつと畠を広げたいです」と話してくれました

ボニヤー・ルウADP

地域の未来を担う若者が、力をつけるために

若者が地域のために活動する力をつけられるよう支援する「ユースクラブ」を視察。そこにはチャイルドの姿も！動画の撮影・編集技術を学び、年下の子どもたちへ啓発活動を行っていました。「父を亡くし、働かなくてはならず、退学して落ち込んでいたけれど、ユースクラブに参加して地域に貢献できることで自信と希望を取り戻せました」と話してくれる女の子もいました。



涙ながらに体験談を話してくれた女の子



ユースクラブの若者と一緒に

訪問した チャイルド・スポンサーの方々の感想

チャイルドと目があつたらすぐ笑ってくれ、その笑顔を見たら涙がでました。私が送った手紙や写真をチャイルドが持ってきてくれ、言葉の壁を越えて交流できました。

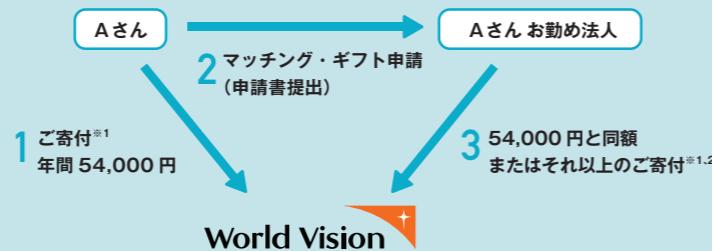
チャイルドの女性のがんばりに明るい未来を感じました。事業資金だけでなく、運営のための会計知識などをもつた人材も必要なことが分かりました。



社員の想いに連動する企業の社会貢献の形「マッチング・ギフト制度」を知っていますか？

「マッチング・ギフト制度」とは、企業の従業員が社会貢献を目的としてNPOなどの団体に寄付した際に、そのことを勤め先法人に申請すると、その法人が同額またはそれ以上をマッチ（連動）して同じ団体に寄付するという、企業の社会貢献制度のことです。欧米の企業では、従業員の勤め先に対する満足度を上げることを目的の一つとして広く導入されています。たとえば、チャイルド・スポンサーシップによる1年間の支援（1人のチャイルド54,000円の場合）を、お勤め先の「マッチング・ギフト制度」に申請すると、お勤め先からワールド・ビジョン・ジャパンへ同額（またはそれ以上）が寄付されます。「マッチング・ギフト制度」が導入されている企業にお勤めの方は、制度を活用して、支援の輪をさらに広げてみませんか？

例えば、チャイルド・スポンサーシップによる1年間の支援（1人のチャイルド54,000円）を、お勤め先のマッチング・ギフトに申請した場合、以下のような流れになります



※1ご寄付は、従業員の方、法人それぞれの名義で寄付金控除の対象となります。
※2企業からのご寄付は「ワールド・ビジョン・ジャパンの働きのため」としてお預かりし、支援を特に必要とする活動に用いさせていただきます。

遺贈、遺産や相続財産などのご寄付

マサさん、ありがとう！ あふれる子どもたちの笑顔と感謝

WVJでは、遺贈、遺産・相続財産からのご寄付をお受けしています。千葉県在住の山崎育子様は、ご主人から引き継いだ相続財産からご寄付くださいました。ご支援によってケニアに建設された学校の教室と水タンクが完成後、現地を訪れ、支援の成果を視察しました。ご病気により50歳の若さでお亡くなりになられたご主人は、生前チャイルド・スポンサーとしてご支援ください、子ども好きの愛情あふれる人だったといいます。山崎育子様にケニア訪問の感想を聞きました。

Q ケニアの支援地訪問はいかがでしたか？

A 子どもたちの笑顔が最高でした。一生分の“ありがとう”を言われ、これほど感動はありません。想いが形になりそれを見たことが遺族として何よりうれしい。現場で本当に必要なことに対して支援ができたことを主人は喜んでいると思うし、生きた証を見たような気がします。

Q ご支援によって高校に設置された水タンクはどうでしたか？

A 水タンク設置により子どもたちが水汲みから解放され、事故に巻き込まれないようにしたこと、勉強の時間ができたことがすばらしいことだと思いました。生徒たちはそれぞれ先生や医師になりたいと夢を語ってくれました。主人の写真の旗が風になびいて、まるで主人がそこに立つて待っていてくれたかのように思い、涙が出て感動しました。

Q ご支援によって建設された小学校の教室はいかがでしたか？

A 明るい教室で、きれいな机といすに座って勉強できる環境ができたことが一番良かったです。それまでの教室は狭く暗くて目が悪くなりそうでした。新しい校舎は、主人の名前入りの記念教室と書かれ、子どもたちが“Thank You Masa”と書いた紙を手に持って歓迎してくれたことは忘れません。

「遺贈・相続からの寄付」について、詳しい紹介冊子をご用意しています。

資料のご請求・お問い合わせ TEL: 03-5334-5351 (平日9:30-17:00)



ケニアのキアムボゴコ支援地域に建設された小学校の教室にはご主人のお名前 Masa が入っています。山崎様（右端）とご家族が訪問されました



支援によって建設された水タンク。ケニアのオレントン支援地域に建設された水タンクのおかげで、飲料水や洗濯など生活用水に使うことができます



支援を受けたケニアの小学校の子どもたちとともに。前列中央が山崎様とご家族

WVカフェに参加してみませんか？WVスタッフが、あなたの街を訪れます！

宮城

日時：2018年7月7日(土)14:00～16:30

会場：仙都会館 4階会議室

仙台市青葉区中央2-2-10 仙都会館4階

大阪（スペシャル）

日時：2018年9月15日(土)14:00～15:30

会場：UMEDAI 大阪梅田会議室 01・02会議室

大阪市北区茶屋町1-27 ABC-MART 梅田ビル7F



2018年3月 WV カフェ in 福岡の様子

「チャイルド・スポンサー同士で話せるのが楽しい！」と好評のイベント「ワールド・ビジョン・カフェ（WV カフェ）」を全国各地で開催しています（参加費無料）。支援地域の子どもたちの様子や活動状況を写真や動画を交えて報告します。参加ご希望の方は、事前にホームページ、Eメール、お電話にてお申込みください。（締め切りは開催日の3日前です）

スペシャル・ゲストの登壇決定！ ぜひ、ご参加ください！

WVJ30周年フィナーレイベント 「つながろう、子どもたちのために」

日時：2018年9月17日(祝・月)

12:00～WVフェス(プレ・イベント) 13:30～WV カフェ・スペシャル

会場：淀橋教会 (〒169-0073 東京都新宿区百人町1-17-8)

内容：・WVフェス：参加者の皆さまとWVJスタッフの交流タイム

・WV カフェ・スペシャル：

①支援地域*からチャイルド＆元チャイルドが来日！感謝の報告を行います

②スペシャル・ゲスト：作曲家の宮川彬良さん（チャイルド・スポンサー）

③WVJのこれまでと、これからの挑戦（新・旧事務局長より）

エンディング：WVイメージソング「“何か”はきっとできる」合唱

プログラム内容は変更の可能性があります。HP等で更新情報をご案内します

*ルワンダとフィリピンから「チャイルド」、バングラデシュから「元チャイルド」



©PACO
宮川彬良さん

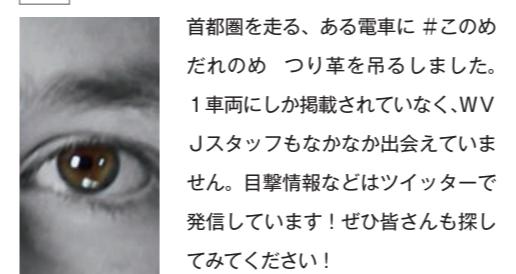


WV カフェ・WVJ30周年フィナーレイベント
についてのお申込み・お問い合わせは：

◎コンタクトセンター（支援者窓口）
TEL: 03-5334-5351 (平日9:30-17:00) Eメール: dservice@worldvision.or.jp

Take Back Future キャンペーン イベント

1 # このめだれのめ【つり革を探せ！】



首都圏を走る、ある電車に#このめだれのめ つり革を吊るしました。1車両にしか掲載されていなく、WVJスタッフもなかなか会えています。目撃情報などはツイッターで発信しています！ぜひ皆さんも探しみてください！

2 未来ドラフト2018【アイデアをエントリーしよう！】



“難民の子どもたちの笑顔ある未来”を実現するための若者と大人をつなぐ実現型アイデア・コンペティションを実施します。「難民問題」は、あまりにも大きくて複雑なものに思えるかもしれません。それでも、「すべての人に」何もかもはできなくとも、誰かに“何か”はきっとできる。子どもから大人まで、多くの皆さまからのアイデアを募集しています！

エントリー期間：6月20日(水)～8月3日(金)

決勝大会：9月2日(日)

詳細は、ホームページをご覧ください。

未来ドラフト2018



世界に思いをはせて Vol.3

事務局長 木内 真理子

シリア内戦発生から7年が経ちました。紛争や迫害により世界で難民生活を余儀なくされている人は6500万人を超え、半分以上が18歳未満の子どもです。紛争は泥沼化し、今や難民の平均避難期間は17年とも言われています。祖国に帰るまでののはずだった「仮」の生活は長期化し、避難生活の中で生まれた子どもにとっては恒常化しています。心身に想像を絶する傷を負う子どもたちが希望を持って歩み出せる日が来るために、私たちにできることは何なのか—子どもたちの声を聴き、地道にあきらめずにチャレンジしていきたいと思います。